

Chapter III

東学思想の自生的近代性と作乱(作亂)の リミナリティ

Autogenous Modernity and Liminality of Disorder in Donghak

目次および研究概要

本研究は東学思想に現れる自生的近代性とリミナリティ(境界性)を、東西洋の天観・地観・人間観の比較を通じて体系的に分析する。

東学の侍天主(侍天主)、造化定(造化定)、永世不忘(永世不忘)思想に現れる東西洋思惟の創造的融合と自生的近代性を照明する。

1. 問題意識と研究背景
2. 理論的背景:リミナリティ概念
3. 東西天観の比較
4. 東学の天観とリミナリティ
5. 東西地観の比較
6. 東学の地観とリミナリティ
7. 東西人間観の比較
8. 東学の人間観と社会的意味
9. 結論および含意

問題意識と研究背景

- 東学思想は東西洋思想の衝突と融合が起きた19世紀朝鮮の時代的脈絡において 自生的近代性 を形成する
- 天観(天觀)・地観(地觀)・人間観(人間觀)は東西洋思惟体系を比較する核心概念
 - 西洋: 存在論的 思惟体系(実体論、本質/現象の二分法)
 - 東洋: 生成論的 思惟体系(属性論、変化/相関性の重視)
- リミナリティ (Liminality) は境界性、中間性、転換性を意味
 - 社会的文化的秩序が解体・再構成される境界的空間
 - 東学思想において東西思惟の衝突と合成を通じた創造的転換を分析する概念
- 本研究の目的:東学の侍天主(侍天主)・造化定(造化定)・永世不忘(永世不忘)思想に現れるリミナリティを探究し、韓国近代性の自生的側面を再照明

理論的背景リミナリティ(Liminality)概念

- リミナリティ 境界性, 中間性, 転換性 を意味する概念は

リミナリティ (Liminality) の特性:

既存の秩序が解体され新たな秩序が形成される 境界的空間 として、変換と創造の可能性が開かれる場

- 東学思想研究におけるリミナリティの適用
 - 東西思惟体系の 衝突と融合 を通じた創造的境界空間
 - 「系統発生が個体発生を反復する」関係性による天地人三才の新たな配置
- リミナリティの分析次元
 - 天観(天観): 形相的/同化的天観の境界と侍天主概念の出現
 - 地観(地観): 質料的/凝縮的地観の境界と造化定概念の出現
 - 人間観(人間観): 成長論的/接化的人間観の境界と永世不忘思想
- リミナリティから見た 自生的近代性: 東西洋近代性の単なる中間ではなく、創造的再構成と新たな可能性の空間
東学の

東西天觀の比較 - 西洋の形相的天觀

- 存在論的(実体論) 天觀の特徴
 - 変化を 実体 (substance) で説明
 - 本質と現象の二分法的区分
- プラトンとアリストテレスの宇宙觀
 - プラトン:イデア(形相)世界と現象世界
 - アリストテレス:形相(形相, form)と質料(質料, matter)
- 西洋の形相的天觀は 下から上へ 觀察する方式であり、現象を形相(本質)と質料(物質)に区分し、実体を通じて変化を説明する存在論的構造を形成
- 四原因説と四元素説(地水火風)
 - 四原因:形相因、質料因、作用因、目的因
 - 四元素:地(地)、水(水)、火(火)、風(風)
 - 第五元素としての神(神)またはイデア
- 西洋近代性と天觀の変化
 - 地動説とカルヴァンの予定説
 - マテオ・リッチの『天主実義』と西学の伝

東洋の同化的 (同化的) 天観

- 東洋の天(天)概念の二重性
 - 天外天(天外天): 天地を生んだ無極、太極の天(天の上の天)
 - 理法天(理法天): 天地に区分された天、理致としての天
- 同化的(同化的)天観の特性: 異質的要素を一つに統合する性質
 - 天円地方(天圓地方): 天は円く地は方 - 形態的区分
 - 天道地徳(天道地徳): 天は道(道)、地は徳(徳) - 機能的区分
- 陰陽五行(陰陽五行)を通じた生成論的宇宙観
 - 西洋 実体論的变化 (地水火風)と異なり 属性への変化 を説明の
 - 相関的思惟を通じた万物の有機的関係の説明: 陰陽→三才→四象→五行→八卦の発展
- 天観・地観・人間観の三重構造
 - 同化(同化): 天(天)の属性 - 異質な要素の統合(炭素同化作用のように)
 - 凝縮(凝縮): 地(地)の属性 - 圧縮と凝結(水蒸気の凝縮のように)
 - 接化(接化): 人(人)の属性 - 異なる要素の出会いと融合

東学思想の侍天主(侍天主)天觀とリミナリティ

- 侍天主(侍天主)は東学の核心的教理で、「天主を奉る」の意味
 - 崔水雲の天師問答体験から生じた宗教的覚醒の産物
 - 西洋の人格的天主と東洋の理法的天觀の創造的融合
- 「我が心すなわち汝の心なり。人が各々自らの心の中の天主を侍り奉戴すれば、それが即ち天道なり。」 - 『東經大全』より
- 東西天觀のリミナリティ (境界的融合)
 - 西洋:形相的(形相的)天觀 - 超越的神と人間の分離
 - 東洋:同化的(同化的)天觀 - 天人合一、天と人間の一体化
 - 東学:超越的/内在的天を同時に認める仲介的立場
- 自生的近代性 の表現
 - 天主の「内在性」を強調 内有神靈 外有氣化(内有神靈 外有氣化) 教理
 - 無極大道(無極大道)、造化(造化)、無為以化(無為以化)など東学独自の独創的天觀を形成
 - 単純な西学への対応ではなく、東西洋思想の創造的総合と新たな思想体系の構築

東西地観の比較 - 西洋の質料的地観

- 西洋の **質料的地観** :存在論的観点から地(地)を質料(matter, hyle)として概念化
- **地水火風地水火風の四元素説**
 - 地を構成する物質的実体としての四元素
 - アリストテレスの四原因説と連結された物質的世界観
- **原子論的世界観**
 - 分析的思惟全体から部分ではなく部分から全体へ
 - デモクリトス、エピクロスから近代科学まで続く伝統
- **三機能体としての地観**
 - インド・ヨーロッパ語族文化圏の共通した構造
 - 天(祭司) - 地(戦士) - 人(生産者)の社会的構造化
- 存在論的地観の近代的変容
 - 神を排除した近代科学の物質主義的パラダイム
 - 対象化・道具化された自然とし **機械論的世界観**としての地:

東洋の応縮的地観

- 東洋の地観は 応縮的 特性を持つ:異質な要素が絡み合って固まる現象
 - 地(地)は天(天)の影響を受け圧縮・収縮する力が作用
 - 天門地方(天圓地方) 天道地徳(天道地徳)の相互関係性の強調
- 土(土) 概念の重要性
 - 五行における中央の土(土)は陰陽の調和と変化の中心的役割
 - 時間の変化においても辰・戌・丑・未(辰戌丑未)の土(土)が変化を仲介
- 風水地理 と 明堂 思想
 - 地の気運を重視する風水地理の体系と三数分化(三數分化)理論
 - 九宮八卦(九宮八卦)と河図洛書(河圖洛書)へ発展した地の象徴体系
- 相関的思惟 に基づく地と人間の関係
 - 地は人間と天の仲介者:凝縮は同化と接化を連結する媒介体
 - 西洋の質料的地観と異なり、地そのものが生命力と神聖性を持つ有機体的存在

東学思想の造化定(造化定)地観とリミナリティ

- 造化定(造化定)の意味と地観(地観)
 - 「造化」は天地運行の結果、「定」は定着と具現を意味
 - 西洋の質料的地観と東洋の凝縮的地観のリミナリティ
- 東学にお 地の神聖化 と大衆性
いて
 - 地は単なる物質ではなく霊性と調和の空間として再解釈
 - 民衆の生活空間である地の地位を再設定する平等的観点
- 東学教理の 道教的要素 と性理学的融合
 - 呪文・符籙の自然な融合と思想的再解釈
 - 伝統儒学の理法天と西洋の形相的天観の融和
- 地観のリミナリティ と社会的意味
 - 空間の階層的区分が解体される社会的リミナリティ
 - 自生的近代性の土台としての地と民衆の連結
 - 東学農民運動当時「作乱」を通じた新たな社会空間の創出

西洋の成長論的人間観

- 存在論的人間観 :人間本質と成長中心
- キリスト教的起源
 - 原罪論:救済を通じた成長と変化
 - プロテスタント倫理:自己啓発、労働を通じた神聖化
- 近代的発展
 - デカルトの理性的主体:思惟する個人
 - 啓蒙主義:理性と合理性を通じた人間の完成

- 現代的展開
 - マズロー 自己実現:成長欲求の段階的完成の
 - 実存主義:自らを作り上げる主体としての人間
 - ポストヒューマニズム:技術と結合した超越的進化
- 西洋人間観の特徴
 - 垂直的成長 :部分から全体へ、下から上へ
 - 個人主義的 :集団より個人の成就と発展を強調
 - 進歩と発展:持続的な変化と成長を肯定的価値として評価

東洋の接化的人間観

- **接化(接化)** : 異質な存在が対等に出会い差異を保存しつつ統合する属性
 - 東西人間観の核心的相違点を示す概念
 - 天円(天圓)と地方(地方)、天道(天道)と地徳(地徳)の融合としての人間
- **天地と人間の相互化育** : 天地人三才の相互作用
 - 乾健坤順(乾健坤順): 天の健(健)と地の順(順)を統合する人間
 - フラクタル的(fractal)人間-宇宙観: 天(1)、地(2)、人(3)において、人は天地を包含する(1+2+3)
- **相関的思惟** と儒学心理学
 - 集団性と個別性の調和: 個人は社会と宇宙の有機的一部
 - 内面(理)と外面(気)の統合、心性(心性)と情感(情感)の均衡
- 東洋的接化人間観の社会的具現
 - 政治君子の道徳的模範と社会調和の理想
 - 学問: 経世致用(經世致用)と内聖外王(内聖外王)の統合

同化(同化)

中心志向統合
天(天)の属性

凝縮(凝縮)

完璧主義・収斂
地(地)の属性

接化(接化)

混合主義・融合
人(人)の属性

東学思想の永世不忘(永世不忘)の人間観とリミナリティ

- 永世不忘(永世不忘)の意味と背景
 - 天地人(天地人)三才(三才)における「人(人)」の位相と役割の高揚
 - 東学で人間は天地と対等な三才の一部として宇宙的位相を獲得

「内有神霊 外有気化」(内有神霊 外有
氣化)

内面には神霊があり、外面には気化がある

- 侍天主(侍天主)中心の人間観
 - 人間内面にある「神」の発見と奉り → 人間の神聖化
- 社会的意味とリミナリティ
 - 接主制(接主制)を通じた平等思想の制度化 → 階層の境界の解体
 - 東学農民運動と民衆の地位上昇 → 身分制の実質的崩壊
 - 自生的近代性 : 西欧的近代性と区分される内在的平等性と共同体的人間観

東学の自生的近代性と社会的意味

自生的近代性の特徴

- 構造的創発性 :東西思惟体系の創造的結合
- 脱境界的統合 :天・地・人 三才の統合的再構成
- 侍天主造化定・永世不忘として表現された自生的近代性
 - 西欧化されなかった韓国的近代性
 - 内在的超越性を通じた新たな宇宙観

社会的歴史的意味

- 身分制の解体と平等思想の実践的モデル
- 東学農民運動の歴史的意義
 - 社会変革運動の思想的基盤の提供
 - 民衆主体の歴史意識の形成
- 現代的含意
 - 韓国民主主義運動の思想的土台
 - ポスト近代性への転換可能性

結論および含意

東学思想のリミナリティと自生的近代性

- 東学思想は単なる宗教運動ではなく **東西思惟の統攝的再構造化** を通じた自生的近代性の出現
- 侍天主(侍天主)造化定(造化定)永世不忘(永世不忘)は、形相的/同化的天観、質料的/凝縮的地観、成長論的/接化的人間観の創造的融合

自生的近代性の意味

- 西欧的近代性と区分される **内在的平等性** と **霊性の社会的具現**
- 社会変革と精神的革命が同時に成し遂げられる韓国的近代性の特殊性

現代的示唆点と今後の研究方向

- 生態危機と近代性の危機の時代、東学思 **統合的宇宙観** が提示する代替的思惟体系
- ^{想の}身分・階級・性別など既存の境界の解体と再構成を通 **ポスト近代性** への可能性
- ^{いた}東学-天道教-宗教多元主義へと連なる韓国的近代性言説の系譜学的研究の必要性